

# アテネでの宣教

2023年2月5日

使徒の働き 17章16～34節

序：ピリピ ⇒ テサロニケ ⇒ バレア ⇒ アテネ  
妨害・騒動・追跡 パウロ一人だけ

## I. アテネのパウロ

古代ギリシャの首府 B.C. 146 ローマが征服  
自治都市、ギリシャ文化・哲学の中心地（交易はコリント、学問はアレクサンドリア）  
学問、芸術、文化の最新のものを求めて、各地から人々が来ていた  
元々の伝道旅行地には入っていなかった？

(1)パウロは一人で、シラスとテモテが来るのを待っていた

(2)パウロはおびたしい偶像でいっぱい町を見て憤り⇒福音の証しへの情熱

(3)ユダヤ教の会堂へ行き、ユダヤ人たちや神を敬う人たちと 論証した  
広場に出かけて行き、そこに居合わせた人々と 議論し合った

(4)哲学者たちとの議論（互いに議論の相手を探していた）

①エピクロス派＝快楽が人生の目的（by肉体、物質）苦悩や恐怖からの解放  
エピクロス 神々は存在するとしても、人間には無関心、遠く離れた存在  
すべて起こり来ることは偶然（必然ではない）  
最後には死ぬのだから、日々楽しく充実して生きるには？

②ストア派 = 汎神論（なんでも神になりうる）神は普遍的靈魂、靈魂不滅  
ゼノ 人間の理性優先、高潔・自制的義務感や熱意による人生の完成

★彼らのパウロ評：①「おしゃべり」  
種をついばむ鳥 → 知識のかげらを広い歩く者

②「外国の神々の宣伝者」  
イエス、アナスタシス（復活）＝新しい神の名と誤解  
2つの神

★パウロのアテネ人評：①新しい教え、耳慣れないことを見聞きしたり話すことに  
最大の関心・好奇心・興味をもって日を過ごしている

## II. アレオバゴスでの説教

アテネで由緒ある裁判所・評議所があった（裁判、身分調査、議論を戦わす）  
ユダヤ人に対する伝道のやり方ではなく、異邦人向けの方法  
cf. リステラでの説教  
自然、歴史、人間の現実の生活から、唯一の神を解き明かす

アテネの人々の宗教心を糸口に

数多の偶像、神殿、「知られていない神に」と刻まれた祭壇（よく観察した）  
偶像礼拝の原因は 無知  
知らずに拝んでいる人々に真の神を伝える

(1)万物の創造主

すべての人にいのちと息と万物を与えておられる  
人の手で造った宮や人に仕えられる必要がない

(2)歴史の主・支配者

人間を創造 住む場所も時も定めて、地に住ませた  
民族、国境、時代

(3)ご自身を啓示される神

求めさせ、見出させる 神は近くにおられる (↔ エピクロス)  
クレテ人エピメニデス、アラトスのことばを引用  
神の中に生き、動き、存在 神の子孫  
神の子孫が神を造るのはおかしい、それは神ではない (神々)

(4)救い主

無知の時代を見過ごしておられた (忍耐、寛容)  
すべての人に悔い改めを命じておられる (義、愛)

(5)審判者

キリストを立てて、この世界をおさばきになる日を決めておられる  
キリストの (死と) 復活により、すべての人に確証が与えられた  
その日は確実に来る

III. 聴衆の応答

アナスタシスは新しい神の名ではなく、「復活」のこととわかった  
死者の復活はどうてい信じられない (人間の理性優先)

||

福音の中心

(1)嘲笑った

(2)ためらって、先き延ばしにした

(3)信仰に入った

アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ  
ダマリスという女性

IV. アテネ伝道の結果

(1)パウロは主が開かれたアテネで福音宣教を全力でなした  
十字架につけられたイエスを証した

(2)人間的な見方をすれば、実の少ない残念な結果 (教会設立には至らなかった?)  
労したパウロ自身もがっかり? (失望) (×後悔)

(3)語るべきこと、伝えるべきことは宣べ伝えた 結果は主のもの

(4)嘲笑った人、信じることをためらった人自身が結果責任を問われる

(5)すべて人の計画ではなく、神のご計画が従う人たちによって成し遂げられる  
神が主人、私たちはしもべ 神が全責任をとってくださる